

## 厚木愛甲環境施設組合広域ごみ処理施設採用技術検討委員会（第4回） 議事概要

1. 日 時 平成18年12月11日（月） 午後1時30分～午後5時35分

2. 場 所 厚木愛甲環境施設組合 会議室

3. 出席者（出席委員数8名／委員数9名）

委 員 学識経験者：寺嶋委員（委員長）、横田委員（副委員長）  
木下委員、松本委員

行政職員：屋宮委員（欠）、服部委員、伊従委員、岩澤委員、小野澤委員

事務局 厚木愛甲環境施設組合（事務局長、事務局次長他）

日本技術開発（株）（委託先）

傍 聴 なし

4. 内 容

(1) 前回議事録の確認について

- ・ 前回議事録の内容について、了承が得られた。

(2) 傍聴者の扱いについて

- ・ 第4回委員会の傍聴は、認めないこととした。

(3) 議事

○評価項目の重み付けについて

- ・ 大項目の重み付けは、次回委員会までに事務局で決定する。
- ・ 得点化方法は、以下のように行う。（今後、調整可）  
「評価対象となっている中項目の各得点（◎：3点、○：2点、△：1点）の平均値」×「その大項目の重み付け」。6つの大項目に同様の方法を用いる。（満点は300点。）

○各方式の技術評価（ハードル方式）について

- ・ 「環境に配慮した施設」、「安全に配慮した施設」とともに、全ての方式、組合の要求水準を満足することを確認した。
- ・ ただし、「安全に配慮した施設」については、各方式、記載内容にばらつきがあるので、統一した視点で整理してはどうか。

○各方式の技術評価（総合評価方式）について

- ・ 全体的に◎、○、△の評価については、再度見直し、評価理由を明確にすること。
- ・ 「1. 環境に配慮した施設」では、シャフト炉の排ガス量、排水量について確認すること。

- ・ 「2. 安全に配慮した施設」で、事務局は、どこまで地震に耐えうる施設にするのか想定しておく必要がある。
- ・ 「2. 安全に配慮した施設」では、「通常時の対策」、「非常時の対策」、「作業環境対策」の3つを評価対象項目とする。
- ・ 「3. 安定稼働に優れた施設」で、トラブル事例は、対象期間を考慮した件数で評価してはどうか。
- ・ 「3. 安定稼働に優れた施設」で、新たな評価対象項目として、「連続的安定処理性」を追加する。
- ・ 「3. 安定稼働に優れた施設」で、1 炉あたりの灰溶融炉の連続稼働日数を再確認すること。
- ・ 「3. 安定稼働に優れた施設」で、中項目の「機器点数」は、「システムの複雑化」に変更する。
- ・ 「4. 処理性能が優れた施設」で、中項目の「前処理の必要性」は、「追加的処理の必要性」に変更する。
- ・ 「4. 処理性能が優れた施設」で、粗大ごみ処理施設からの埋立物発生量は評価対象外とし、焼却溶融施設からの埋立物発生量を評価対象とする。また、キルン式の埋立物発生量は再度確認すること。
- ・ 「5. 資源循環に優れた施設」では、電力関係を評価対象としているが、燃料等の使用量は考慮しないのか。  
→資源循環という視点から、電力、スラグ、有価物を評価対象としている。燃料等の使用量は、他の項目で評価している。
- ・ 「5. 資源循環に優れた施設」で、「スラグ化率1、スラグ化率2」の定義を記載すること。
- ・ 「5. 資源循環に優れた施設」で、資源回収量を再確認すること。
- ・ 「6. 経済性に優れた施設」で、維持管理費については、用役費のみ評価対象とし、その他の項目は評価対象外とする。

#### ○今後のスケジュールについて

- ・ 次回は、平成 19 年 2 月 7 日（水）午後 1 時 30 分から実施する。
- ・ 次回委員会は、メーカーのノウハウに係わる内容となるため、傍聴は不可とする。

#### ○その他

- ・ 次回委員会では、技術評価（案）とともに、報告書（案）を提示することとなった。